

かなこれんNEWS VOL18号

発行：(一社)神奈川県子ども会連合会
編集責任者：神子連広報部長 宮野 利美
発行日：令和4年1月1日
<http://www.kodomo-kai.or.jp/kanagawa/>

神子連（かなこれん）とは、神奈川県内の各市町村の子ども会の集まりの組織です。
市町村だけでできないような、野外活動や、集団活動、研修活動など様々なイベントを行っています。

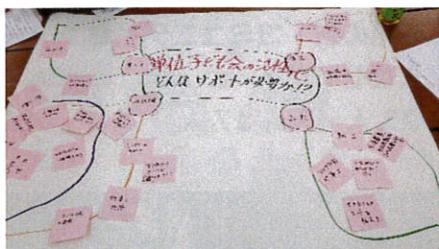
令和3年度会長会・指導者研修会が開催されました

令和3年11月28日（日）スカウト会館にて令和3年度（一社）神奈川県子ども会連合会会長会・指導者研修会が開催されました。令和3年度上半期の事業報告等のあと、指導者研修会として県立青少年センターより川手隆生先生をお迎えして講演とワークショップを行いました。

コロナ禍における子どもたちの現状について、国立成育医療研究センターの調査資料をもとに、生活面では就寝時刻の遅れや乱れ、スクリーンタイムの増加、食習慣の乱れや、先生や大人に話しかけにくくなったという対人関係の変化が起きていること、また心の健康の面では調査に回答した子どもたちのうち7割超が何らかのストレス症状を抱えていること、未就学児においても支援の必要がある子が20～40%にのぼることなどのお話がありました。一方で、青少年の体験活動などの効果を経年的な視点から分析を行ったところ、子どもの頃の「体験」は未来社会を担う子どもたちの健やかな成長を確かなものにするために必要な要素であることが分かってきたというお話もあり、コロナ禍においても子どもたちの「体験」を守ることの大切さがうかがえました。

後半はワークショップで、マインドマップの手法を使ったグループ内での自己紹介に始まり、「単子子ども会の活性化にどんなサポートが必要か」をメインテーマに各メンバーが考えたことを一言で付箋にどんどん書き出して、話し合いながら同じテーマのものを集めていく作業を重ねて、グループごとに大きなマインドマップにまとめていきました。

最後に出来上がったマップを見て回り、質問したり、共感したりしながらさらに考えを深めていました。



研修に参加して

- 市子連、町子連、抱えている問題や思いは同じということが実感でき安心しました。
- 単子ひとつひとつが活動できるための応援が育成連絡協議会の役目だとして活動していますが、まだまだ単子の希望に添えていないのかもしれない。子どものやりたいこと、大人の楽しいことの活動のために援助していきたいと思った。まだまだやれる事がある気がします。
- コロナ以降、頭の中がモヤモヤして何をどうすればいいのか決断しづらい。今日の研修のように考えをまとめる機会も必要だと感じた。



県央地区子ども会活動事例より



神奈川県子ども会連合会には5つの地区がありますが、そのうちの1つ、県央地区子ども会連絡協議会では例年単位子ども会による活動発表会を行っています。昨年度は緊急事態宣言の発令等で対面での開催が難しかったため、活動事例集を作成しました。そのなかから3例をご紹介します。

大和市 中央6丁目子ども会 水てっぽう『ウッテQ』

日時：令和2年8月1日（土）10:30~11:00
場所：みどりの広場
参加人数：子ども14人・大人14人・幼児3人

コロナの影響であらゆるイベント等の中止が相次ぎ、全学年合同での初イベント。水てっぽう撃ちまくり&水風船爆弾投げつけで、みんなでびしょ濡れになって遊ぼう！という企画でした。久しぶりのイベントで子どもも大人も楽しい時間を過ごしました。



☆コロナ対策で工夫したこと&大変だったこと

- ・マスク着用、手指消毒、検温参加者名簿作成（検温記入）
- ・水の補給係に大人を配置し密にならないようにした
- ・水風船用ビニールプールは離れた場所に2か所設置した
- ・水鉄砲の貸し出しはなし
- ・思いっきり楽しめるように245個の水風船を用意したが作るのが大変だった
- ・マスク着用で熱中症にならないか気をつけた

☆イベントを実施しての感想

コロナ渦中の開催に不安があったが、子どもも大人も楽しくイキイキとしていて実施できて本当によかった。



綾瀬市 早園アクティブ☆サークル子ども会 焼きイモ大会

日時：令和2年12月19日（土）
8:30~12:30
場所：小園子之社
参加人数：子ども12人・大人8人

全員でお借りする子之社の落ち葉掃除からスタートしました。子どもたちが自由に遊んでいる間に、大人は焚火の準備。おイモを洗い、アルミホイルに包む作業は子どもたちと協力して行いました。今回はOGも参加したため、他学年との交流ができました。



☆コロナ対策で工夫したこと&大変だったこと

- ・屋外でできるイベントを考えた
- ・自宅で検温を実施してから参加とした
- ・除菌ウェットティッシュ、アルコールでの手指消毒を実施
- ・コロナ対策ではないが、消防署へ焚火の届出をした

☆イベントを実施しての感想

焚火の道具や薪、おイモの提供など子之社はじめ地域の方々が協力くださったおかげで、とても楽しいイベントが開催できました。焚火の経験がない子どもも多く、貴重な経験となりました。おいしい焼きイモに大人も子どもも大喜びで、毎年のイベントにすることにしました。



座間市 おおぞら子ども会 さくら道ウォークラリー

日時：令和2年12月20日（日）
場所：さくら百華の道・コミュニティセンター
北地区文化センター
参加人数：子ども23人・大人17人

屋外でできる行事として、ウォークラリーを実施しました。

コミュニティセンターを出発して、さくら百華の道を経由して北地区文化センターに向かいます。各所でクイズ・スタンプポイントを設け、最後にクイズの答えからキーワードを導き出してゴール！というコースで行いました。

晴天のもと、たくさんの子もたちが参加してくれ、みんな楽しくゴールできました。



☆コロナ対策で工夫したこと&大変だったこと

- ・全て屋外で実施
- ・受付、出発を10時~11時の幅を設けて人数が集中しないようにした。
- ・受付時とゴールで手指用の除菌ジェルを用意
- ・範囲が広いので、大通りを信号から渡らせるよう誘導したり、さくら道と一般道の交差・横断箇所での安全確保などに人員が必要で、役員だけではカバーできないので、保護者や市子連にお手伝いを頼んだ。
- ・寒さ対策として、カイロを全員に配った

☆イベントを実施しての感想

お天気に恵まれ、とても気持ち良いイベントとなった。楽しんでもらったと思う。クイズの内容が身近な地域のことを知ることになっていたのも、とても良かったと思う



コロナ禍における子ども会活動についてのアンケートより

令和3年7月、コロナ禍の活動に関するアンケートを市町村子連に実施しました。お寄せいただいた回答のまとめをご報告いたします。お忙しいなかご協力いただいたご担当者の皆様に感謝申し上げます。

<市町村子連の子ども会活動について>

- *各市町村子連とも子ども達との活動はほぼ中止。対面せずに行える作品展や、緊急事態宣言が解除された期間に感染対策を徹底して活動できたものもある。対面を避けてクイズペーパーを配布したり、密を避けるため会場と ZOOM とのハイブリッド開催を試みたり等の工夫も見られた。
- *総会や会議は、出席人数を絞る、回数を減らす、紙面で周知する、LINE やメール、ZOOM の活用等で接触の機会を減らす方法で行われた。
- *実施してよかったこと
対面で生の声を聞き近況や意見の共有ができた。育成会長の悩みの相談の場になった。子ども達も意識を持って行動できることがわかった。
- *困ったことや課題
オンラインで実施するにあたり PC やネットワークの環境が異なるため統一した方法をとることが難しかった。どのタイミングで実施するか判断が難しかった。イベント実施について賛成と反対に分かれた際の折衷案の構築に苦慮した。コロナ禍ではあるが子ども達のために感染しないよう十分注意しながらどのように事業を進めていけるか模索している。



<単位子ども会の活動について>

- *単位子ども会として実施したイベント
新入生歓迎会・水てっぽう大会・ラジオ体操・資源回収・公園清掃・みかん狩り・ウォークラリー・工作ハロウィン・クリスマス会・どんど焼き・ドッジボール・お別れ会・プレゼント配布（事業中止の代替）
- *実施のための対策や工夫
マスク着用・検温・消毒等のいわゆるコロナ対策の徹底。屋外で実施する。飲食を避ける。短時間で開催する。室内で行う場合は人数を制限する。部屋の換気をする。2部制にして一度に集まる人数を減らす。家族単位で行動する。「当日の欠席も OK」という募集にしてあとでおみやげを配る。発熱者には欠席を促す。道具などは共有しない。無理をせずに状況により中止すること。
- *実施してよかったこと
感染対策をしながらも毎年恒例の行事が行えたことで、子ども達に安心感や満足感を味わってもらえた。子どもも大人も喜んで参加してくれた。参加者の保護者の交流の機会にもなった。
- *困ったことや課題
中止が相次いでいるので、事業を計画しても子どもたち間で期待してもらえなくなりつつある。それぞれの「コロナ対策や感染状況に対する考え方の違い」によって役員が負担を感じるケースがある。

アンケートを通してコロナ禍において模索しながら活動を続けている市町村子連、単位子ども会の姿が浮き彫りになりました。無理せずにできることから、お互いの考え方の違いを受け入れる寛容さをもって活動することが大切だと感じます。

* * * * * 全国子ども会連合会・神奈川県子ども会連絡協議会表彰 * * * * *

- 令和2・3年度 公益社団法人全国子ども会連合会表彰  **おめでとうございます** (敬称略)
 - <個人> 小川 陽子 (大和市) 植野 祐子 (綾瀬市) 山上 武久 (前神子連会長)
 - <団体> 綾瀬市子ども会育成連絡協議会 (一社) 神奈川県子ども会連合会 (奨励賞)
- 令和3年度 神奈川県子ども会連絡協議会永年功労者表彰
 - <個人> 新宮 真奈 (茅ヶ崎市) 鈴木 郁子 (厚木市) 岩澤 れい子 (清川村) 金城 正美 (清川村)
 - <団体> つるのこ子ども会 (茅ヶ崎市)